

山崎薫助教 / 日本中古文
文学部 日本文学科



文学部 日本文学科
助教

やまき かのる
山崎 薫

2019年4月より盛岡大学文学部
日本文学科助教。幼い頃から日
本文学・日本史好き。歴史上の
偉人のほとんどが男性なのに
対し、紫式部や清少納言など女
性が活躍した平安時代に興味
を持ったことがこの道に進ん
だきっかけだそう。

「歌謡」に注目し読み解く
平安文学

文学作品に引用される
「歌謡」に注目

専門は日本中古文。平安時代に貴族の間で流行した、催馬楽（さいばら）や風俗歌（ふぞくうた）といった歌謡が、『源氏物語』などの文学作品にどのように取り入れられているのかを探究しています。

催馬楽や風俗歌はもともと、地方の歌舞を起源とするもの。一見ただけではわかりにくい謎めいた歌詞も多く、貴族文化を中心とする中古文においてはなかなか日の当たらないジャンルではあります。

しかし、貴族たちに取り込まれた歌謡は中央の文化に見逃すことのできない影響を与えています。文学作品における歌謡の受容について分析し、その重要性を明らかにすることは、地域文化の再評価にもつながると考えています。

平安に生きていた人々の暮らしと
心に思いを馳せる

平安時代の文学には、もちろんフィクションの部分もありますが、当時生きていた人間の心理や社会情勢が反映されています。1000年以上前の世の人たちが作った作品ですが、そこには現代に生きる私たちと変わらない普遍的なものもあり、その共通点を見つけ出すのも文学研究の楽しさだと感じています。

長年取り組んできた、『源氏物語』における歌謡の引用についての論考をまとめるほか、今後は中世以降の催馬楽や風俗歌の受容についても考察していきたいと考えています。

Faculty & Research



【 Episode 】 幼い頃から大の犬好き。
愛犬との生活を満喫中！

盛岡に暮らすことになり、東京時代には飼えなかった犬との生活を再び始めました。愛犬は3歳の柴犬、名前は「光（ひかる）」です。毎日出勤前には30分ほど散歩。犬に話しかけながら歩いています。かわいくて仕方ないですね。

中古文を見ると、平安時代の貴族は猫派が多かったようです。外で飼われていた犬が登場することは少ないのですが、清少納言の『枕草子』に宮中で飼われている犬の話が出てきます。